

令和元年度 第2回 吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時：令和元年（2019年）11月18日（月）  
午後2時～3時30分

開催場所：吹田さんくす3番館 4階大会議室

出席委員）広瀬委員長、柴田副委員長、植田委員、酒井委員、佐中委員、西野委員、  
林口委員、野々上委員、稲垣委員  
事務局）木戸地域教育部長、落地域教育部次長、長中央図書館長、林野参事、桑名参事、  
北野主幹、森千里図書館長、森さんくす図書館長、牧瀬江坂図書館長、  
梶原千里山・佐井寺図書館長、添田千里丘図書館長、井手山田駅前図書館長  
傍聴者）なし

令和元年度 第2回吹田市立図書館協議会次第

- 1 「平成30年度（2018年度）吹田市立図書館点検・評価報告書」（案）作成について
- 2 報告事項
  - （1）中央図書館耐震補強及び大規模改修工事について
  - （2）健都ライブラリー整備の進捗状況について
  - （3）北千里複合施設の整備について
  - （4）退任委員の報告について
- 3 その他
  - （1）次回日程について

広瀬委員長：開会の挨拶

事務局：傍聴者確認

出席確認

地域教育部長挨拶

資料確認

### 1 「平成30年度（2018年度）吹田市立図書館点検・評価報告書（案）」作成

長館長：吹田市立図書館点検・評価報告書につきましては図書館法第7条の3「運営の状況に関する評価等」の項に基づきまして各年度ごとに図書館運営の評価と点検結果の報告を、実施するものでございます。

委員の皆様には前回、図書館活動の統計結果に図書館の自己評価を載せたものをお配りしまして、御意見をお伺いしておりました。その後、統計結果の数値も確定させていただき、

協議会の皆様からいただいた評価と意見を反映させた評価を加えました「平成 30 年度(2018 年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」を本日お配りしております。この点検・評価報告書について、本日出していただきました意見をまとめまして、評価を確定させたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

まず、「吹田市立図書館点検・評価」の在り方自体についても御意見をいただいておりますので、この点につきまして、事務局からご説明させていただきます。

「吹田市立図書館点検・評価」につきましては、「吹田市立図書館基本構想」の中で設定いたしました基本目標に沿って作成したアクションプランの課題と各事業について評価を行っていただいております。一方、図書館では毎年「吹田市立図書館の基本方針と目標」を作成し、図書館協議会には、御報告という形でお示ししておりますが、この年度の「基本方針と目標」と今回、行っていただいております「点検・評価」の整合性がとれていない、また「基本方針と目標」には各館の取り組みが示されているが、「点検・評価」の中でも評価していくべきではないか、という御意見をいただいております。

毎年の「基本方針と目標」につきましても「吹田市立図書館基本構想」のアクションプランに沿ったものではございますが、年度ごとの数値目標等は提示されておられません。その点、目標としては、その是非を評価していただきにくいものだったと思います。目標設定の根拠となるアクションプラン自体が平成 25 年作成のものであり、図書館を取り巻く状況の変化のスピードを考えると現時点ではすぐわないものも出てきており、一部、修正はしておりますが、全面見直しについては、今年度、図書館で作業を開始いたしておりますので、来年度分には反映したいと思っております。また、各館の取り組みにつきましては、「吹田市立図書館基本構想」が各館の特色を示す形になっていないものやはり年度の目標を立てることは必要であるということで盛り込んでいるものでした。この点についても、基本構想そのものを見直す際に盛り込む形にし、より整合性をとった形にしたいと考えています。それまでの経過措置といたしまして、毎年の「基本方針と目標」の中で各館の目標を設定し、「点検・評価報告書」の別冊のような形で評価を行っていただければと思っております。なお、毎年の目標につきましては図書館が設定するものと考えておりますが、協議会委員の皆様からもアドバイスをいただきながら、1 年の取り組みを行ってきたいと考えております。6 月か 7 月に開催いたします協議会の中で御報告させていただき、アドバイスをいただきながらすすめていきたいと考えております。

以上の点につきましては、次期、第 9 期の図書館協議会の御意見もいただきながら、すすめてまいります。

広瀬委員長：今、全体に関わるお話で行政の内部で計画との整合性をより確かにしていくというお話でしたが、何か御意見はありませんか。

柴田副委員長：今の説明の中でもありましたけれども、もともとの計画は多年度にわたるものであって、それを実施していく間にどんどん状況なども変わっていくということがあるかと思ひます。その中で目標設定をされて毎年報告書を出しておられる。私たちはいろいろ説明を受けていますので、数値だけにとらわれない判断、評価を下すことが可能かなと思ひ

ますけれども、市民の皆さんが見られたときにやはり数値のところが目飛び込んできますので、当初立てた目標が現状とそぐわないものになってきた場合には、例えば、協議会で「このように目標値を変えたい」といったことも御提案いただいて、それで修正した上で、評価のときは、その立てた目標に従って行うという形にさせていただければ、すっきりするのかなと思いますね。そういったこともご検討いただければと思います。

長館長：現在、この評価の全面改訂もしていますけれども、やはりその全面改訂で5年後の目標設定をしましても、若干の微調整というのは毎年しつとということになると思います。その際には全面改訂の中でも、目標数値につきましては協議会の皆様にお諮りいたしますし、その微調整が社会情勢等の関係もありますので、協議会に御相談しながら決めていきたいと思ひます。

広瀬委員長：他に御意見ございますでしょうか。

西野委員：計画を立てて評価ということをこれからやって頂けるということで、良いと思ひます。

そのとき計画を協議会で承認するのかどうかは分かりませんが、きちんと「こんな計画です」と協議会でご説明頂くことは必要だと思ひます。その上で初めて点検評価報告書が成り立ちます。また今回、「吹田市の図書館活動」という30年度の統計を頂きましたが、評価するときはやはりデータが必要と思ひます。この統計は11月発行ですが、これをもう少し早くしないと点検・評価報告書に繋がらないです。なるべく統計に必要なデータが含まれ、それを使って点検・評価報告書とすることです。また前回は申し上げたかもしれませんが、吹田市の予算策定においてもデータが必要です。他の市の図書館では予算のためのデータとして早く統計結果を出しておられます。その意味でも統計は早く出さないと、あとに繋がらないと思ひます。早期の統計報告をお願いしたいです。あと一点、各館の活動報告ですが、私はこの吹田の各館は自館の特色を出して頑張っておられると思ひます。それをきちんと表現して、副委員長からも話のあったように、お客さま、市民のみなさんにわかるようにうまくつなげて頂ければと思ひます。

広瀬委員長：ありがとうございます。前にも同様の主旨の御発言をいただいていたかと思ひますけれども、とりわけすべての案件ではないんですけれども、中には予算に絡む項目もあるということで、そういう意味では翌年度の事業運営に反映させるということと言うと必要資料のとりまとめの時期、この協議会での評価の時期とについてもあらためて検討いただければという御意見だと思ひます。とりわけ今、お話の中でも各館特色があってバラエティに富んでいて、それぞれの特色は特色として評価したい、ということがあって、単純に同じ共通の数値目標で並べてどここの館がいいとかわるいとかではなくて、それぞれの多様性もきちっととらえた質的な評価が必要なのかなと、そしてそれは市民にきちっと伝わる形が取ればなという御意見だったかなと思ひます。

それでは具体的な案について移りたいと思ひます。

事務局より各項目の説明をお願いします。

桑名参事：本日お配りしている点検評価報告書案は、前回図書館の評価を入れて御意見を頂戴し数値を確定してお送りした資料に、9月頃に皆様から頂いた評価を整理したものです。図書館

の評価は前回御提示したもののままです。皆様の御意見を成果と課題として、字句の訂正など編集をして入れております。各委員の評価につきましては、別紙にて一覧表「各委員評価入り」としてお配りしております。

今年度の評価については取組みを実施しておおむね現状維持できているというところを一定の成果と見てB、現状より成果が上回ったものをA、下回ったものはC、取組み自体が出来なかったものについてはD、ということで整理させていただいております。

それでは2 ページ基本目標 1 いつでもどこでもだれでもサービスをということで、取組み 1 として図書館施設及びサービス網の整備をあげ、中央図書館の整備と、不便地域の岸部に新設する図書館の進捗と、数値としては広域利用の結果をあげております。図書館としては、中央図書館の耐震及び大規模改修の実施設計を行い次年度の工事が決定し、また、健都ライブラリーの整備についても順調なこと、大阪市との広域利用の拡大ができたことから、Aをつけています。協議会の評価はおひとりがBで 9 名がAの評価をいただいています。Aを記入させていただいています。図書館整備が着実に進んでいることや広域サービスについても大阪市民の江坂図書館利用と利用範囲を拡大したことなどの評価をいただいたものと考えております。一方、中央図書館の工事開始が遅れたことへの懸念、健都ライブラリーについては、指定管理者制度の一部導入についての市民へ説明と地域の特性を生かしたサービス展開、また、現在基本計画策定に向けて進んでおります、北千里小学校跡地複合施設につきましても、地域住民の声を十分に生かすことを課題として挙げていただいています。

4 ページからの取組み 2 利用促進については、数値として貸出冊数とホームページへのアクセス数を入れております。貸出点数は目標点数に達しませんでした、実利用者（年度内に 1 度でも貸し出しをした人の数）一人当たりの貸出点数は 51 冊を超え、過去 5 年間で最高となっております。また、メルマガ送信件数が年間 1 万件以上増加し、新着図書のお知らせサービスの利用件数も回復しています。登録者のリピート率の増加と SNS の投稿数に課題が残り図書館としてはBの評価です。委員の皆様の評価につきましても全員がBをつけていただいていますので、Bを入れさせていただいております。

これは年間貸出冊数が目標値に遠いこと、また、目標値自身についても設定方法について疑問視された委員もいらっしゃいました。また、目標数値は下回るが、紙媒体での情報発信など質の面では評価していただきました。

7 ページ取組み 3 資料と情報の提供ということで、昨年度取り組みました図書館講座、文化行事の参加人数やレファレンス（読書調べもの相談）の数値を入れております。そのうち行事についてはアクションプランの数値を見直した箇所となっております。教育委員会の重点項目に成人向け児童向け合わせた平成 31 年度までの参加人数目標を掲げたことから、その数字からそれぞれ割り戻して参加人数目標とさせていただいています。目標値は下回りましたが、成人向け行事への参加者数は前年度より約 700 人増えています。これは、前年度の千里図書館に引き続き、行事の開催の仕方を工夫し、不特定多数の方に自由に見ただけのよ

うな行事を行った結果と考えております。

レファレンス件数につきましては、前年度より減っておりますが、その間レファレンス事例のリーフレット「図書館で調べもの」を発行しました。また、学校との連携では団体貸出の申し込みをインターネットでできるようになりました。図書館の評価はBとしています。協議会の評価は、おひとりがC、9名の方がBをつけていただきました。記入はBとしております。

ここでも行事参加者の目標値との乖離が見られることについての懸念を挙げていただきました。

続きまして基本目標 2 生涯学習を支援して仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスということですが、12 ページ取組み 1 施設や地域との連携の項目につきましては、出前講座や市役所の他の部署からの講師派遣の依頼の数を入れております。専門職としての仕事ととらえ、今後も取り組んでまいります。また、講師派遣だけでなく、行政支援サービスの一環としたレファレンス依頼や地域経済振興室との連携事業を「吹田市立図書館ビジネス支援だより」として、引き続き出しています。図書館の評価はA、協議会の評価は3名がB、7名がAをつけていただいています。記入は多く評価をいただきましたAとしています。

14 ページ取組み 2 自己実現の援助、こちらは主にボランティア関連の項目となっております。図書館で養成している障がい者サービスや児童サービスのボランティア以外にも多くの皆様に支えていただき図書館活動を続けております。こちらは目標値が高いためなかなか届きませんが、いろいろ努力を続け、登録者数は前年度より増えています。参加しやすさを目指し、今年度からは図書館フレンズの通年登録を開始しています。目標値とのほど遠さということで、図書館の評価はB、協議会の評価も全員Bの評価をいただいています。

16 ページから、取組み 3 図書館利用に障がいのある人へのサービスの充実ということで音訳図書の貸出が増加しております。デジタイ再生機の貸出や、やさしくよめる本のコーナー設置などにも取り組みました。前年度より開始した来館困難な方への郵送貸出も定着して貸出数も大きく伸びました。障がい者サービスにつきましては、基本構想での目標値は設定していませんが、法の整備も行われ、まだまだこれからのサービス展開が必要ではありますが、現時点のサービス内容については、他市との比較においても、群を抜いているところから、図書館としてはA評価をしております。協議会評価はAが6名、Bが4名となっており、A or Bと表記しております。

18 ページ 特色あるサービスは 各館がそれぞれ取り組んだ事業についての評価となっております。自己評価はA。協議会評価はAが9名、Bが1名でございました。多い方をとってAとさせていただきます。

21 ページからの基本目標 3 子育て支援、学校連携などの児童サービスについてでございますが、ブックスタートでは関係部局と連携して地道な努力をしておりますが絵本の配付率、ブックスタートのひろばの参加人数が減っております。図書館見学等学校連携事業参加者数が昨年より減っておりますが、台風や地震の影響により、実施が難しかったというお話を前回、植田委員からもお聞きしたところです。この他、学校との連携につきましては、団体貸出が昨年度に続き大幅に増えています。また、学校の読書活動支援者との交流や訪問も引き続き実施し、学校連携に向けた関係づくりを行っています。自己評価はB。協議会としても更なる学校支援の充実と、「子ども読書活動推進計画」の改訂ということで協議会評価はBが8名、Cが1名でございました。多い方をとってBとさせていただきます。

25 ページ総合評価につきましては、図書館の評価を一覧にしています。最後に全体の評価も入れております。

26 ページからの図書館協議会の評価は、委員の皆様いただいた御意見をかさなった部分などを整理して、ひとつのまとまりとしての御意見になるようにさせていただいておりますがよろしいでしょうか。お手元に元の御意見を表としてまとめたものをお配りしておりますので、あわせてご参照いただき、御意見お願いいたします。

広瀬委員長：案の説明をいただきましたが、一つずつ確認しながら、この場でも御意見をいただき決定することとします。まずは基本目標1、取組みについては3つにわかれていますので、順を追って取組み1につきまして「図書館施設及びサービス網の整備」。図書館の評価はAで協議会の評価は案としてAと出してもらっています。委員についても大きく異ならないと思いますが、委員の中でBが1名いらっしゃいますが。西野委員もう少し意見があれば。全体としてAが多いのですが、単純な評価が多数決の話ではないので、それぞれの委員の意見を大切に総合的に判断するものと思いますので追加で御意見があれば。

西野委員：Aで良いと思いますが、Aと評価するほどハイライトするものがあつたのかなあと思ったので「普通です」という意味で、私はBとしたものです。皆さんが評価する点があればAでも良いと思います。

広瀬委員長：評価の基準と、どういうふうの評価するのか、AにするBにするということに迷うところはあるのかと思うのですが、上回る成果、そこまでではなく、計画どおり充実できた事業展開であればBなのかと、判断が分かれたところかと思えます。全体計画に従って取り組まれているだろうと考えているんですが、実際取組していく中で、よりいいものを作っていく、僕は、健都のその後の展開過程において、期待が持てるなあと思ひまして、着実に進んでいると判断して高く評価した形で自分はAにさせていただいたところです。他の委員も何か、意識するところがあるかと思ひつけられているのかと思ひます、西野委員から今、Aの評価でもかまわないという御意見もいただきましたが、協議会全体の評価としてAでいいでしょうか。

全員：(異議なし)

広瀬委員長：ありがとうございました。協議会としてAの評価を決定させていただきます。

広瀬委員長：基本目標1の取組み2 利用促進についてこちらは図書館の評価がBで、協議会の方は全ての委員がB評価なので、評価そのものは大きく問題なく、Bでいいのではないかと思います。自由にお意見ありましたら。利用促進について何かございますでしょうか。すでに書面でも意見をいただいている委員もいらっしゃるのですが、せっかくなので、この場でいかがでしょうか。資料P6のところに、成果、そして課題の面もふれていただいていると思いますが、特に問題がなければ、Bの評価で確定させていただこうと思います。

林口委員：SNSの件で、投稿件数を増やしたいのであれば、やっぱり見た目を重視するべきだと思います。少し前からインスタ映えという言葉が流行っているように、何か、目に見えない取り組みももちろん大切なのですが、SNSの反応をよくするためには、見た目に関して何か新しいことをするとかパッと写真を撮ってSNSに上げたくなるような効果を狙ったビジュアル面に関して、何かするべきじゃないかと思います。駅前から見てもそうなのですが、今、さんくす図書館は、ブルーのネットで張られていて、「さんくす図書館」「教育委員会」の文字がわかりにくいので、なるべく早くどうにかするべきだと前々から思っていました。それから、11月11日から12日まで図書館総合展にも行ってきました。電車の駅からぱっと、図書館が見えた。それが、川崎市立中原図書館というところで、商業施設の中にあるということもあるかと思うのですが、中原図書館の看板が、カラフルで、ぱっと目に入ってきた。黄色と緑と赤と青と使われていまして、公共施設にないような色使いだなと思ひまして、一気に興味がわいて、帰ってきて調べたりしたのですが、何か公共施設の看板は、銀色の文字一択、黒色の文字一択で少し若い方々の見目で入りやすいような、カラフルな色使いを試みるのもSNSでの効果に反映されるのではないかと思います。また似たような色使いで言いますとカナダのバンクーバーの公立図書館も赤や青といった少しカラフルな看板を使っている。いかにも公共の施設ですよ、というよりは、誰でも入りやすい効果を狙うのであれば、色使いやビジュアル面での工夫をしてみてもいいのではないかと思います。

広瀬委員長：ありがとうございます。SNSだけでなく、図書館、図書室の空間デザインを含めた御意見かと思ひます。今でこそ公共施設は従来型ではなく、耳目を集める建物も増えてきて、とらわれずに、ということだと思いますが、見た目については、様々な御意見があると思うのですが、こうすると、こちらからは、好評だけれども、落ち着くのは従来型のものだと御意見もあるかと思ひますが、とらわれず取り組んでもらいたいと思ひます。具体的な提案、御意見ありがとうございます。その他いかがでしょうか。ないようでしたら、次に進ませさせていただきます。

広瀬委員長：取組み3は資料と情報の提供でございます。自己評価がBで協議会の評価案もBを入れさせていただいております。Cの評価も1名いらっしゃるのですが、いかがでしょうか。関連して御意見いただければと思ひますが。

西野委員：ちょっと厳しい評価をしています。つまり、それは「平成30年度の結果はこうでした。だからこう評価した。」ではなく、違うことが載っているなどと思ひました。「やりました」を書かなくて、次の目標を書いています。また児童サービスのところで人数が減っている。こ

これは例えば「昨年度は台風のため・・・」をどこかで説明しておかないといけない。前回の協議会のときに、私達委員は聞いて知っています。しかし市民の方々は点検評価報告書しかみないので、この数値は大丈夫なのかと市民が思うことを考える必要があると思います。また数値でいうと、P7 の成人サービスでは実施人数の数字が3分の2位しかない。それが大丈夫なのかをはっきりさせないといけないと思います。数字は怖いということを考えないといけないので、私はCにしました。

広瀬委員長：ありがとうございます。特にこの項目に関連したことなのですが、全体に関わって、点検・評価報告書の書き方として、1つはあくまで終わったことの事業の結果について書いていただいて、その評価の根拠を書いていただく、という筋で統一いただいて、次年度どうしたいのかは、ここでは止めていただいて、結果の報告とその根拠とに徹していただく方が、評価する側としても、また、結果を見る市民としても、誤解なく伝わるんじゃないかという御意見かと思います。再三にわたって評価をする際にこの報告書に取り上げられている数値目標が立ててある部分だけで評価するのではなく、図書館活動を通して、各項目の評価をいただきたいということは、お伝えしてきたわけですが、しかし、これが、報告書として出来上がれば、これだけを御覧になる方も出てくるわけで、一つ一つの数字が説明なく独り歩きすると違和感を持つ方もいるかもしれません。そう言う意味で説明が一定つく部分は説明してもらおう方がいいのではないかという意見かと思いました。

西野委員： 評価はみなさんと同じBでいいですが、これから先、そういうことを考えて作っていただきたい。そうでなければ、この協議会の委員としてやっている時に「何をやっていたんですか」と言われた時に答えようがないというのがあると思うんです。協議会として出したものからです。

広瀬委員長： 枠組み自体を考えることを今年度からするという中で、今いただいた意見も反映いただければと思います。結果として、全体の評価は、Bでいいというお言葉もいただきましたので、Bで提案させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

全委員：(異議なし)

広瀬委員長：ありがとうございます。つづけて基本目標2の方に移らせていただきます。まず1番目が施設や地域との連携についてということですが、こちらA、B混在しているわけですが、より多かったAを先に評価としては記入させていただいております。こちらBよりのA、AよりのBなどと、迷ったところがあるかと思いますが、大きな隔たりがあるわけではないのかと思うのですが、一覧表を見させていただいたのですが、特段御意見があれば、いかがでしょうか。特にないようであれば、提案どおりのAにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

続きまして、取組2の自己実現の援助に移らせていただきます。図書館の自己評価がBで協議会の全体の評価としてBの評価の案を出させていただいております。こちらについて御意見がある方。

稲垣委員：質問ですが、ボランティア活動が中心となっていて、吹田の図書館でも児童サービスや障がい者サービスで特にボランティアの方の活躍、頼ることが大きいと思うのですが、大

変長い間、関わっている方が多いかと思うのですが、例えば図書館フレンズをお作りになってからしばらく経つので、最近、ボランティアの方からの具体的な御意見を何か、こういうことでやりたい等、生の声がありますでしょうか。

牧瀬館長：図書館フレンズについてですが、活動の種類が狭く、行事のお手伝いや、設営をしてもらったり、アンケートを配っていただいたり、回収していただいたり、作品の展示の見守り、壁面装飾といった児童コーナーや、特設コーナーの飾りを作っていたり、新聞の吹田関係の記事のスクラップやデータ入力をしていただいたりしています。千里丘図書館では屋上緑化庭園があるので草取りをしてもらっています。現在はこの4つぐらいの活動でして、活動内容を増やさないといけないことは、長年の課題なのですが、増やせておりません。フレンズ方からの声としては、講演会のお手伝いをしていただいておりますので、講演会に参加できて、講師の方と話をすることができて、有意義だった、こういう場が作ってもらえれば外に出られるきっかけがあって嬉しいなどと、恐縮ですが、感謝の言葉をいただいております。

稲垣委員：特に自己実現の援助とテーマを設定されているので、御自分として積極的にこういうことがしたい、といった御意見がありましたら、是非取入れてもらい、幅広く活動してもらえたらと思います。

牧瀬館長：例年3月には説明会と、その場でも新規登録の会の場を設けておまして、新規に登録されたいという方と長年登録されている方とお話をさせていただいて、先輩のフレンズさんが積極的に談話をしていて、和気あいあいとしていて、新しい方も心配せずに参加が促されて大変いいことだと思っています。

稲垣委員：わかりました。ありがとうございます。

広瀬委員長：ボランティアの登録数とその実績の話については、前にも協議会でも話に上がっていきまして、これはこの件に関してだけでなく、ボランティア全体でなかなか人の確保が難しいという状況がある、また様々な図書館関連活動以外の社会的活動機会があるという中で、ここだけ単独で、数だけを増やしていくということは難しい状況であるとうことを踏まえて評価をするということだったと思います。今、関わっていただいている方、やりがいを持ってこの活動に関わっていただける方を、顔の見える形でどれだけ繋がっていけるかが大切ではないかといった御意見もいただいておりますので、それを意識しながら取り組んでいただけたらと思います。

西野委員：今回、図書館総合展で、お会いした方で「図書館フレンズの作り方」という本を出している方に会った。その方は、図書館フレンズの方なのですが、今、吹田でやっていることは、言われたことをやっている、作業を手伝うになっているけれど、自己実現を考えると、その方の話では、図書館フレンズにどんなことがやりたいというのを募集するそうです。もう一步進んだステップ、「自己実現」の話を考えたら、何かを言われてやるという立場よりも、ボランティアの方々のやりたいことをやらせてあげる、だと、自己実現に近づくとと思います。

牧瀬館長：参考にします。

広瀬委員長：こちらの評価はBで確定させていただきます。

続きまして、3つめ高齢者、障がい者サービスの充実ということで、図書館の自己評価はA

で協議会は AorBとなっております。Aの方がより多くの委員が評価をしてくださっているのですが、Bにされている方も複数いらっしゃるって両論併記という形になっています。これも上回るという状況を、例えば、他市と比べてどうかということが、発想としてあるかどうかということだと思っておりますが、これはあくまで吹田市内の評価ということなので、そのあたりをどう考えるかがあったかと思えます。ここは、数字が出ているものも、もちろんあるのですが、単純にこの数値目標を達成しましょうとなっているものではないので、どこの部分がどう上回るかをどう評価することかと思えます。A評価の委員が多いのですが、いかがでしょうか。Bをつけられた委員もAに近いBだという方もいらっしゃるかと思うのですが、Aの評価でいいのではないかというのであれば、Aで提案をさせていただきたいと思えます。特にBの評価をつけられた方で、これはやはりBかという御意見があれば御披露いただければと思えますが、Aで提案しようと思えますがいかがでしょうか。

西野委員：私はBなのですが、Bというのは普通で、Aにするなら評価のときに「こんな成果があったこと」、「良かったこと」をちゃんと書かないといけません。P18の成果のところで、「実施しています」と書いてありそれは正しいのですが、その次に「元年度中に設置します」とあります。これはH30年度の成果なのか？と思えます。例えば、成果1は（障がい者サービスの中心館である）千里山・佐井寺図書館だけでなく、その他館でもやるようになったことがすごいことで、それが成果と言えるのではないかと思えます。そういうプラスのことを書いて頂きたいです。

広瀬委員長：ありがとうございます。科研費についても、成果として高く評価する旨を書いていた委員もいますけれども、書き方に係る部分があったかと思うのですが、今実施しているものが、目標立てたものにほぼ沿ったものなのか、さらにそれを超えるような実績が上がったのか、わかりやすく結果に示された方が評価はしやすいというのは、確かにあるかと思えます。科研費をみても、研究者と連携しながら実際に取り組まれているものを、より良くしていくという意欲的な取り組みの部分をもどの程度評価していくものかというのが、AとBの分かれ目であったかと思うところなのですが、障がい者に関わるサービスなどは図書館、分館図書館、全体でユニバーサルな環境になれているかということに、まだ課題もあるかと思えますし、目標との関連で目標をはっきりしていただくことと、判断する情報を書き分けていただくということが、必要なことかと思えます。こちらとしては、今、お話があったように、成果の部分が確認できる部分が一定目標を超えるような質のようなものがあると捉えられるようなものがあれば、評価してもいいのではないかということですので、私もBと評価していたのですが、Aという評価でもいいかと思いました。他の委員の中でBを付けられた方でやはりBだということであれば、先ほど、Aの提案をさせていただきましたが、A評価でよろしいですか。

全委員：（異議なし）

広瀬委員長：ではAかBの評価となっていました。Aの評価とさせていただきます。ありがとうございました。

取組み4、特色あるサービスにつきまして、図書館の方の自己評価はA、協議会の評価はA。こちらはほぼAの評価ですが、1名、Bの評価が含まれていました。こちらに関わって御意

見、この場でおありの委員はおられますでしょうか。各館それぞれの強みを生かして、事業展開していただいているのがよく伝わってくる内容の部分かなと見させていただいたところです。いくつか、自己評価でも課題の指摘がありますが、引き続き、お金も人も限られている中で、それぞれの特色をさらに広げてもらえるようなアイデアが大切になるのかと思うところです。協議会では、多文化サービスのところでも課題、今後大阪では万博や全体としてはオリンピックの話などもあります、グローバル対応ということを見ると、吹田市内、近隣自治体でもやはり意識して取り組みが必要な部分であると思います。引き続き積極的に取り組んでいただければと思います。協議会の評価をAにしたいのですが、よろしいでしょうか。

全委員：(異議なし)

広瀬委員長：ありがとうございました。

それでは続きまして、基本目標3の方に移りたいと思います。図書館の自己評価はBとなっております、子ども読書活動支援センター機能の充実という具体的取組みがありますが、協議会の評価では案としてBを入れさせていただいております。こちらも大体の方がB評価で、1名C評価もありますが、いかがでしょうか。全体としてはB評価の提案でございます。

野々上委員：意見にも書かせていただいているのですが、やっぱり一番気になるのは「子ども読書活動推進計画」のことで、大阪府では第4次計画が出てきているところです。吹田に関しては滞っている状態が続いているんですね。策定委員会を立ち上げていただいて、市民も加えて定期的にこういう委員会をしていただく、そして推進計画を立てていただくというのが一番いいのではないかと考えているのですが、そういう見通しというか、計画というか今後の様子はいかがでしょうか。

長館長：まだ進んでいないのが現実です。図書館だけではないところがございまして、学校教育の方にも声をかけさせていただきながらしていきたいと思いますが、どういう形態から入っていくということも、まだこれからのことでございまして、来年度、今日もこの後、小学校の方に見学に行かせていただくのですが、とっかかりではないのですが、先生方とのお話し合いもさせていただきながら、これから進めていきたいと思っております。

野々上委員：他市の統計で聞いたのですが、学習成果、吹田はトップクラスなんですね。大阪を北と南に分けると、北の方が、成績というか評価なども高く、南の方の人から、吹田はトップだったと聞いたのですが、そういう意味では、学校図書館のこともあるのですが、先生達も一生懸命努力をされて、子供たちの成績アップに繋がっているのかなとも思いますし、そういう土壌であるということも一つはあるのかと思うのです。やはり「子ども読書活動推進計画」があって、ブックスタートなどスタートしたという経緯もありますから、これが基本になるのが、一番いろんな子供の活動、これからの学習や豊かな育ち、学びに繋がっていく、一つの根底にあるものではないかと思っていますので、ずっと、まだこれからです、まだ考えているとの回答しかもらっていないので、それはいつまで続くのかと、心もとないと思います。策定委員会を早く、いろんな部局と検討していただきたいと思っ

ています。

広瀬委員長：ありがとうございます。

稲垣委員：関連ですけれども、野々上委員の御意見の通りなのですが、なかなか難しいというのは返答にもございましたけれども、やはり少し、私達は退任するので、ここは言うておきたいのですが、子育てを大事にする吹田市として実現していく形として、ここは国の施策でもありますので、やはり大事だと理論づけもできると思います。学校現場が大変だということは、ここにいる皆さんは、おわかりだと思うのですが、それを乗り越えて、図書館だけではできないのはわかりますので、連携という形で、幼児の、保育園、幼稚園の時から、あるいは0歳の時から積み上げていくものなので、少し形に今からしていかないと、学業がいいというところも、根底の子供の育ちの中では大事なあたりなので、是非私からもお願いしたいと思います。

広瀬委員長：ありがとうございます。学校関係の委員の方も出ていただいているので、今日は視察もさせていただくということで、現場的にも、この計画策定を推進するには、メンバーで関わっていただいている方々の共通の理解があって、初めてうまく機能していくという部分があると思いますので、行政の部局間連携だけではなくて、現場からもきちっと意見を聞きながら、次期改訂に向けて前向きに取り組んでいただきたいという強い御要望であると思いました。今期の協議会委員については大きな図書館に関わる基本計画とか、基本構想とか、実施計画などを立てるといったミッションがなかったので、ただ、意見としてはたびたび出てきたと記憶しております。是非受け止めていただければと思います。よろしくをお願いします。

野々上委員：お聞きしたいことがあるのですが、団体貸出のことについてですが、図書館活動の学校との連携、P.13の団体貸出のところですが、BMの児童書の貸し出し数が24,956冊になっているんですね。これは、団体貸出のP.22の、ごりまる便の団体貸出と関連があって、この数字になっているかと思うのですが、これは、学校への貸出、読書活動支援者への貸し出ししている貸出冊数だと思うのですが、数字が多いので、たぶんそうだと思うのですが、それでよろしいですか。

長館長：BMと書かれているのが自動車文庫で貸し出ししたという冊数になっておりまして団体の利用者も含まれておりまして、学校への貸出は、含まれておりません。

野々上委員：学校への貸出は含まれていないのですか。あまりにも数字が大きいので。

井手山田駅前図書館長：学童保育に貸し出ししている分が多いです。

野々上委員：学童保育に貸し出ししている冊数でこれだけ大きな数になっているのですか。

井手山田駅前図書館長：学童保育だけではないですけれども。

野々上委員：団体貸出というのは学校への貸出冊数になっているということですか。

11,628冊というのは。

井手山田駅前図書館長：P.29の団体貸出冊数が、小、中学校、幼稚園を含みますけれども、学校への団体貸出への冊数です。

野々上委員：かなり大きな冊数になっているので、私が言いたいのは、連絡車が早く運行できればいいなという考えに繋がっていくのですが、指導室の先生方とお話してもまだその

ところには、手が届かないような御意見を言われてたのですけれどもやはり、これだけの冊数が必要とされているのであれば、早く連絡車のことも考えていただきたいと、この数字を見て思ったことです。

広瀬委員長：これまでの実績としてP.29の学校との連携での団体貸出についても、一定の貸出の実績として示されているということで、需要があるのだからこれに応えるように、車の確保をお願いしたいということですね。

野々上委員：前向きに考えてほしいという、意見です。

植田委員：読書支援者の方や教職員が、運ぶとなると自転車ですと、一度に運ぶ冊数が限られることになる。学校にとっては、同じ時期に同じ本がほしいんですね。なかなかそれが揃わないというところと、学校予算で買える本の冊数というのが限られますので、それをあわせると、例えば豊中市は、図書館から車が運んでくれて、戻してくれる便がありますので、それを実現してくだされば、活用が大幅に上回るのではないかと考えます。お願いしたいと思います。

野々上委員：連絡車が週2回周っているそうです。自転車ですと、重たいですのでこけて、怪我もあるし、バイクの方もいらっしゃいますが、車が使えないので、と指導室の先生と話をしています。

植田委員：よろしくをお願いします。

広瀬委員長：御検討いただけたらと思います。ありがとうございます。それでは、各取組みごとに評価してまいりましたので、総合の評価ですが、ほとんどの委員がBをつけておられたので、提案としてBとしておりますが、いかがでしょうか。概ね、目標を達成する事業の取組みができている評価かと。中には、もちろん目標を超える成果を上げられている部分もありますし、ものによっては、状況が変わる中で、目標値よりは少ない数字になっているものもありますが、全体としてはB評価とさせていただけたらと思います。よろしいでしょうか。

全委員：(異議なし)

広瀬委員長：ありがとうございます。では、総合評価の記述については、文章の整え方の問題だと思いますので、いただいた御意見を事務局でおまとめいただいたもので、特に問題がなかろうかと思えます。特に大きく意見が違う、併存して違っているようには思わないので、文章の整理かなと思えますので、事務局に一任させていただきたいと思えますが、委員の方もそれでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、それでは次第の1をこれで終わらせていただきます。

## 2 報告事項

広瀬委員長：次第の2報告事項に移りたいと思います。

長館長：報告事項の(1)中央図書館耐震補強及び大規模改修工事について、7月の前回の協議会の時に報告しましたとおり、当初の入札が不調になりまして、当初予定していました7月定例会での契約締結議決には間に合いませんでした。ですけれども、その後8月再入札をいたしまして、無事落札されましたので、9月の定例会におきまして、契約締結議決

の御承認をいただいております。11月から工事の着手をしているところです。工事期間につきましては、令和2年、来年2020年10月14日までの予定で、工事期間を設けております。その後、家具、書架の配置、資料の搬入、配架を行いまして、来年の秋と市民の皆様には周知させていただいておりますけれども、令和2年11月中の再開館を目指しております。以上です。

広瀬委員長：続けてお願いします。

林野参事：中央図書館林野でございます。報告事項（2）健都ライブラリーの進捗状況について御報告申し上げます。まず、工事につきましては、今年の3月に工事会社と契約を結びまして、4月から着工をしております、工事現場からは別段遅れもなく順調に進んでいるとでございます。順調に進みましたら、来年の7月に建物の引き渡しの予定でございます。もう一点の報告といたしまして、健都ライブラリーの指定管理者が決定いたしました。9月11日にプレゼン審査等を行いまして、候補者が決定いたしました。応募者の方は、4団体ございまして、候補者となりましたのは、団体名が健都ライフパーク創造パートナーズと申しまして、代表社はミズノスポーツサービス株式会社。構成員が美津濃株式会社、そして株式会社図書館流通センターとなっております。候補者が掲げますコンセプトは健都から生まれ、育むヘルシーパークライフといたしまして、健康の講座、運動講座などの様々な事業を展開していただく予定となっております。こちらの指定管理者の指定に係る議案についてでございますけれども、次の11月の定例教育委員会会議、そして11月の市議会に議案として提出いたしまして、可決されましたら、候補者から正式に指定管理者に決定するものでございます。報告は以上でございます。

広瀬委員長：続けてお願いします。

北野主幹：中央図書館主幹の北野と申します。今回初めてでございます。よろしくお願いいたします。報告事項（3）北千里小学校跡地複合施設についての現在の進捗の御報告をさせていただきます。図書館、児童館、公民館の複合施設となります、北千里小学校跡地の複合施設につきましては、複合施設による子育て学びの拠点づくりをコンセプトといたしまして、施設の整備に係る基本計画の素案をまとめさせていただきました。お手持ちの資料のカラーになるものでございますが、こちら、申し訳ございません、標題がついておりません。誠に申し訳ございません。市民説明会で使わせていただいた資料でございます。こちらが、基本計画の素案の抜粋となっております。御参考にしてください。また、こちらにつきまして、素案に対する意見募集を開始させていただきます。令和元年今週の11月20日水曜日から令和元年12月19日木曜日まで、郵送とファックスと電子メールと直接提出で、意見の募集をさせていただきます。詳細の基本計画の素案につきましては、ホームページからダウンロードが可能となっておりますのでよろしければ、御参照いただきまして、また、設置箇所におきましては、配布も行っておりますので、御参照いただければ幸いです。こちらの複合施設の整備につきましては、今後基本計画の確定をいただきまして、設計に入りまして、令和4年度11月供用開始を目指して準備を進めて参ります。以上でございます。

広瀬委員長：ありがとうございました。これまで御報告いただいたことにつきまして、何か

御質問等ございますでしょうか。

野々上委員：今、健都ライブラリーのことと、北千里の複合施設のことについて、御報告いただいたのですが、北千里複合施設の説明会を先日前お聞きしたのですけれども、ただ、管理運営に関しては、ほとんど出てなかったのですが、複合施設のそのものの管理と図書館の部分の管理運営に関して少しお聞きできないでしょうか。

北野主幹：管理運営につきましては、現在建物整備についての御意見を承っていたところでございます。御質問いただいた管理運営につきましては、今後検討という御回答をさせていただいているのですが、今後は統一事務所窓口を機能として、施設の核とさせていただきまして、まずはワンストップ窓口を目指させていただきたいと考えております。

野々上委員：もう一度いいですか。

北野主幹：窓口は3つの施設となっているのですが、1つの窓口で、全てのことが対応できるというような事務窓口を今回は整備したいと考えている整備計画になっておりまして、今お手持ちの資料ですが、1枚目の必要諸室一覧のところ、機能の中に統合事務室機能となっております。事務室につきましては、この1施設につきましては、事務室は1か所を基本で考えております。資料2枚目になります、平面計画の下段になります紫色の部分、これほど大きいかはわからないのですが、統合事務室というのを設けております。ここに少し突出した形で図書館機能の部分に大きな箱があるかと思いますが、統合事務室の中で図書館の運営と、これから、図書館の伝統的なレファレンスが引き続きできるような形で運営をしていきたいと、内部でも協議をしております。御心配おかけしております、運営につきましては、今後も御意見を承りながら、令和4年に向けて安心して使っていただける図書館の運営を目指していきたいと思っておりますので、是非御意見等をよろしくお願い申し上げます。

野々上委員：健都ライブラリーの件ですけれども、健都ライブラリーの方も指定管理業者が、2社、ミズノとTRCに決まったと、今伺ったのですが、これは以前からこういう風に聞いていたのですが、図書館部門につきましては、今日は地域教育部長もお越しになっているので念を押すことになるのですけれども、図書館部門につきましては、直営ということで進めていただけますよね。それは変わらないということですのでよろしいですね。

木戸地域教育部長：今、御心配いただいておりますが、50年近く吹田の図書館として積み重ねてきたものがございます。それが、好評であるがゆえに、岸部にも早く図書館を建てて欲しいという声があったので、吹田の図書館サービスは低下しないようにしなければならぬと思っております。その中で、特に中心になります、レファレンス関係、それから本の選書関係、これについては、直営の職員を配置しまして、ただ、形態といたしましては、健都の場合は、健康づくり部門であったり、公園の管理部門であったり、建物の全体の管理部門とあと、図書館につきましては、窓口委託をしておりますので、その部分につきましては、一括して指定管理にさせていただいて、職員が行くとしております。ですので、官、民がうまく融合した形で新たなサービスをより融合し、より良くなるような形で考えております。ですので、北千里の複合施設につきましては、まだ決定しておりませんが、レファレンス部門、選書部門につきましては、今の従来の図書館

の形で、いきたいと、子どもは考えております。以上でございます。

野々上委員：是非その方向でお願いしたいと思います。

広瀬委員長：ありがとうございます。その他御質問よろしいでしょうか。

稲垣委員：よろしいでしょうか。今の関連ですけれども、健都につきましては、業者が決まったので、仕様書などはホームページで見れるのでしょうか。何というキーワードで引いたらよろしいですか。

林野参事：はい。健都ライブラリーと指定管理と語句を入れていただいたら、募集要項も決定の内容の選定の公表もいたしておりますので、吹田市役所の北大阪健康医療都市推進室という健都のまちづくりをやっている方のページでも見れますし、吹田市立図書館のホームページでも同じことを掲げておりますので、委員におかれましては、吹田市立図書館でまず見ていただいたら、市役所のそのページに飛ぶようになっておりますので、検索いただければと思います。他の委員の方もよろしく願いいたします。

稲垣委員：評価のところにも書いたのですが、吹田は、図書館だけでなく、いろんな形で事業を公開されているので、いいなと思っております。もう1つですが、さっき御紹介いただきました、北千里の意見の募集している12月19日までというのは、それも図書館のホームページからですか。

北野主幹：こちらは、基本はまなびの支援課が準備しているところですが、吹田市立図書館のホームページから入れるようにいたします。現在も、北千里小学校跡地複合施設という項目を図書館のホームページで掲げておりますので、そこをクリックいただきますと、意見聴取を行っております課に飛ぶようになっておりますが、もう少しトピックスをあげさせていただきまして、11月20日には対応させていただきます。

稲垣委員：わかりました。ありがとうございます。

広瀬委員長：その他ございますでしょうか。他にないようでしたら、退任委員について、事務局から報告をお願いします。

桑名参事：平成29年度から議長をお勤めいただいております広瀬委員、第8期協議会に公募で御参加いただいていた西野委員、林口委員の退任と、学識経験者として御参加いただいております稲垣委員、子どもの本連絡会より御推薦の野々上委員が任期満了につき退任となりますことを御報告いたします。公募のお二人ともまた稲垣委員、野々上委員は、会議に際しては率直な御意見を下さり議論を深めることができたと思っております。広瀬先生につきましては協議会の牽引役となって御尽力をいただきました。ありがとうございました。この報告の後、一言ずつ御挨拶いただければと思います。

林口委員：(挨拶)

西野委員：(挨拶)

稲垣委員：(挨拶)

野々上委員：(挨拶)

広瀬委員長：(挨拶)

### 3 その他

(日程調整、事務連絡)

広瀬委員長：それでは、会の方を閉じさせていただきます。皆さんありがとうございました。

---

本要録並びに配布資料は、吹田市立の各図書館及び市民総務室で閲覧可能です。

要録作成日：令和2年（2020年）1月31日